

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000014		
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里		
事業所名	グループホームこすもす2号館		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田5332番地		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&jisyosyoCd=4592000014-00&PrefCd=45&VerSign=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様本位のケアが実践できるよう、ご本人やご家族の気持ちを常に受け止めながら取り組んでいる。
 ・常に入居者様の立場になって考え行動し、自分がされて嫌だと思ふケアはしないよう努めている。
 ・日常生活の中で入居者様一人ひとりの残存機能を活かし、出来る事と出来ない事の見極めに日々注意しながら、入居者様の自立支援に取り組んでいる。
 ・日常生活において行動時間を特に制限せず、ご本人のペースで自由に過ごして頂けるような環境作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑の広がるホーム周辺を散歩し、農家の人々や近隣住民と挨拶や会話を交わり、親しく交流している。町の文化祭に利用者の作品を出品したり、地元中学生の職場体験を受け入れ、また、航空自衛隊の航空祭に招待されるなど、地域とのつながりを深めている。職員の送迎でなじみの美容室を利用したり、行きつけのスーパーに職員と一緒に買物に出掛けるなど、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。管理者と職員は理念に基づき、日々笑顔のあるケアの実践に努め、利用者は安心して穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や家族の目につきやすいように、ホール・廊下に事業所理念を掲示し、理念に沿ったケアができるよう意識して取り組んでいる。	管理者と職員は、職員会議やミーティングの中で、理念に沿ったケアの実現について常に話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物等は近くのスーパーを利用し、利用者様とともに買い物を行っている。また、町内のイベント等に出かけたり、町の文化祭に作品を出展したりしている。	中学生の職場体験実習の受け入れや町の文化祭に作品を出品するなど、地域との交流に努めている。また、航空自衛隊の航空祭に招待され、毎年参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、地域の皆様に向けての活動は行っていないが、今後は行政とも連携をとりながら、認知症講座や地域の方々が気軽に行えることができるようなホーム喫茶等に取り組み、地域住民の参加を促していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で受けた意見や提案を職員会議で提示し、話し合いを行い、職員全員で実践してみるなどサービス向上に活かしている。	ホームから利用者の状況を報告し、また、メンバーからは情報提供や意見、提案がなされ、充実した双方向的な会議となっている。出された意見や提案を全職員で共有し、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回参加してもらい、施設やご利用者様の現状を説明し、様々なアドバイスを頂いている。問題等があるときは、その都度相談に乗って頂くなどの協力体制を築いている。	町担当者へ運営上の課題を相談し、指導を受けるなど、良好な関係を築いている。また、町から要支援者が利用できる認知症カフェの設置についての相談があり、検討するなど、関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の施錠をせず、自由に行き来できる状態にしている。また、日頃のケアにおいても、拘束にならないよう職員同士での相互確認を行っている。	職員は、内・外の身体拘束に関する勉強会に参加し、身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアの実現に取り組んでいる。見守りを重視した取組で、日中は玄関や居室の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や職場内での勉強会を通して虐待防止法の理解を図り、現場での介助や声掛け等が虐待にあたらないかを職員同士で常に確認しながら、ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理職が外部研修に参加し、介護職員への職場内研修を行って周知を図る。また、今後は介護職員も研修に参加できる機会を設け、現場でのケアに活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の説明を行い、ご家族にご理解を頂いている。ご家族に不安や疑問点等があれば、納得して頂けるよう十分な説明や必要な支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置してご意見を頂いている。面会や会議で来設された際には、ご家族やご利用者様のご意見・要望を気軽に話して貰えるような雰囲気作りに職員一同で努めている。	運営推進会議に家族が参加して、意見や要望を表す機会を設けている。また、来訪時に気軽に話してもらえるよう、和やかな雰囲気づくりに努め、だされた意見や要望を運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で現場職員からの意見を出し合い、可能な限り運営や管理に反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は積極的に各職員と関わる時間を持ち、職員個々の日頃の努力や実績、勤務状況等を把握し、働きやすい環境を整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は各職員が現状に応じた研修を受ける事が出来るような機会を作っている。また、事業所独自の勉強会等を開催し、職員の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修や交流会への出席、グループホーム連絡協議会を通じて他施設職員との交流を図り、お互いの活動を話し合うことでサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談でご利用者様本人と直に話し合い、ご本人が不安に思っている事や困っている事は何かをしっかりと聞き取った上で、安心してサービスを利用して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が施設見学や相談に来られた段階から、困っていらっしゃる事や要望等にしっかりと耳を傾け、ご本人、ご家族ともに満足して頂けるようなサービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の現状、ニーズをしっかりと見極め、必要な場合は他施設や行政等への紹介、情報提供などを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者様の生活歴や能力をきちんと把握し、家事や行事の準備などを職員とともに行って頂く事で、皆が家族のような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合い、いつでも気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りに取り組んでいる。ご家族参加の行事や運営推進会議等への参加もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーへ職員と買い物に行ったり、ホーム周辺の散歩や地域の行事見学へ行ったりする事で、地域住民との交流を図っている。	職員の送迎でなじみの美容室を利用したり、行きつけのスーパーに職員と一緒に買い物に出掛けるなど、なじみの関係が途切れないよう支援している。家族の協力の下、墓参りをする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様の間に入る事で、ご利用者様同士が交流しやすい環境を作り、お互いに出来ない部分を助け合いながら生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所等でサービス終了となる場合には、ご本人の現状を記した情報提供書を作成し、転所先の機関にお渡ししている。また、サービス終了後でも、ご家族からの相談等への支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本人やご家族からご希望を伺い、好きな事や趣味等をレクリエーションに取り入れたり、個別ケアで職員と一緒にいたりしている。	日々のケアの中で、利用者の表情や行動を注意深く観察し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、家族や関係者からも情報を収集し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活についてご家族やご本人に伺い、得た情報を職員全員で把握することで、日常生活支援の向上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の現在の状態を全職員がしっかりと把握し、それぞれに出来ることは自己で行って頂く事で、QOLの向上を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人との話し合いを密に行い、ご要望に沿った計画を作成している。職員会議やモニタリングでの職員からの情報、意見も取り入れて、ケアとの連携を図っている。	本人や家族と十分話し合い、職員や関係者のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。モニタリングを毎月行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録を毎日行い、情報の共有やプランの見直しに活用している。職員同士で理解しやすい記録の書き方を日々検討し、改善を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に代わっての病院受診介助や必要な日用品等の買い物、編み物などの趣味活動を個別対応で行うなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の神社へ手作りの手ぬぐい奉納を行ったり、町文化祭での作品展示を行ったりしている。近所の美容室へ職員介助で通われている方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医を受診できるよう、通院介助や医療機関との情報交換を行い、適切な診療を受けられるよう支援している。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。協力医院からは2週間に1回往診があり、情報交換を密に行うなど、良好な関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各利用者様の状態変化については、訪問看護に報告・相談して適切な受診やケアについてのアドバイスを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の生活状況等の情報提供を速やかに行っている。また、入院から退院までを通して担当医師や連携室との連絡を密に取り、退院後のホームでの生活を安心して行えるような環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状況を全職員でしっかりと把握し、必要と思われる場合は早めにご家族と今後の方針についての話し合いを行い、主治医や訪問看護、各医療機関や介護施設等と連携を取りながら、支援を行っている。	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族に指針を説明し、同意を得ている。ただ、医師や訪問看護、家族、職員、関係者等のチームとしての連携や共有が十分とはいえない。	重度化した利用者もいるので、本人、家族をはじめ、関係者が十分に話し合い、相互に共有し、ホームとしての方針の統一を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員の定期的な研修参加を目標として、応急手当や初期対応を実践の場でしっかりと行える力を身に付けられるよう、体制を整えていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間や夜間を想定した通報、避難訓練を利用者様方とともに実施している。訓練の際には地域の消防団にもご協力頂き、協力体制を築いている。	地元消防団の協力を得て、防災、避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の協力体制が十分とはいえない。	災害が発生した場合には、職員だけではの対応には限界があるので、近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけ、理解を深めるなど、地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は皆様「人生の先輩」であるという事実を忘れずに、各利用者様一人ひとりに適した言葉かけを心掛けています。お声掛けする内容に応じた場所にも注意を払って対応しています。	年長者として敬意を払った言葉遣いや声かけに留意し、対応している。特にトイレの誘導や入浴時の対応については細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がうまく出来ない利用者様であっても、生活の中で本人が何を望んでいるのかを知る事が出来るよう、相手の表情や口調等に十分注意しながら、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等の都合を優先せず、利用者様一人ひとりの生活リズムを大切にして快適に過ごして頂けるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容店の手配や馴染みの美容室への送迎等を行い、利用者様本人のご希望に沿った身だしなみ出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する際には利用者様の意向を伺い、誕生日には本人の好みを聞いて食事を提供している。取り入れるようにしている。食材の買い出しや下ごしらえ、配膳から下膳までの一連の流れを利用者の皆様と職員と一緒にしている。	食材の買い出しや材料の下ごしらえ、配膳から下膳まで利用者と職員と一緒にしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら楽しく食事できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、排せつ状況を毎日記録し、利用者様個々の現状に合った食事量の調整、提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け誘導を行い、自力でのケアが困難な方は介助を行っている。義歯を使用している方には就寝前に洗浄剤使用の声掛け、介助を行っている。		

宮崎県新富町 グループホームこすもす2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様皆様の排泄状況を毎日記録し、排泄パターンを把握し、尿取りパットの適切な交換や個人のタイミングに合ったトイレ誘導を行えるような支援を行っている。	排せつチェック表により、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立にむけた支援を行っている。また、夜間もできるだけオムツを使用しない取組を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や水分摂取量の管理、体操や散歩等での適度な運動などで排便を促している。必要な方にはご家族や主治医と連携を取りながら、緩下剤の服用調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴で、利用者様お一人ずつゆっくりと時間を取って入浴を楽しんで頂いている。なるべく本人の希望するタイミングで入浴して頂けるよう、入浴日や入浴時間の調整を行っている。	隔日の入浴となっているが、利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。また、利用者が好む入浴剤を入れて入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や状況に応じて、日中でも居室でゆっくりと横になって頂けるよう支援を行っている。夜間の消灯時間も特に規定せず、各利用者様の好きな時間に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書には全職員が必ず目を通し、変更等があった場合は確実に周知できる体制を取って服薬支援を行っている。また、利用者様の日々の状態を記録して主治医に報告し、病状の改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯、買い物や裁縫など、毎日の家事を職員と一緒に出来る範囲で楽しんでされている。また、編み物や土いじり、塗り絵や計算問題等、利用者様個々の嗜好に合ったレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やドライブ、食材の買い出し等を職員と一緒にしている。今後は地域の方々との更なる交流を図り、一緒に外出できる機会を設けていきたい。	天気の良い日には、田畑の広がるホーム周辺を散歩し、農家の人々や近隣住民と挨拶や会話を交わし交流している。また、年間を通して、定期的には花見やドライブ、外食等に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や利用者様ご本人からお預かりした現金は、帳簿を作って事務所で管理し、外出時に買い物をする際には職員が支払いの援助を行っている。ご家族には定期的に入出金の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がいつでも電話や手紙のやり取りができる体制を作っている。利用者様が要望される時は、職員が電話の取次ぎ等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の照度や日光の差し込む量、室温や湿度等を調整して、居心地良い空間作りに努めている。季節に合った掲示物を職員とともに作成し、季節感を味わって頂けるよう支援している。	利用者が日々快適に過ごせるように、採光や湿・温度、換気等に配慮している。ホールにはソファーや長椅子を置き、畳のコーナーもあり、季節にあった展示物を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長椅子等の好きな席でゆっくり自由に過ごせるように工夫している。利用者様同士のご希望になるべく添えるよう、食卓の席を配置する等の対応も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人の居室には馴染みの家具や小物、ご家族の写真等を自由に配置してもらい、安心して居心地良く過ごして頂ける空間作りを支援している。	利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを家族と相談しながら支援している。なじみの家具や写真、日用品等を自由に持ち込み、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に利用者様と作成した名札を掲示したり、トイレやお風呂等共同で使用する場合に利用者様作成の看板を設置したりして、自立した生活を安心して送れるように工夫している。		